

# フィットケア実技

「PPE・器材管理編」

## Q5：器材の感染管理

Spauldingの分類ではどれにはいる？

- 1：クリティカル器材（洗浄＋滅菌）
- 2：セミクリティカル器材  
（洗浄＋高水準消毒または中水準消毒）
- 3：ノンクリティカル器材  
（低水準消毒または洗浄後乾燥）



# フットケアにおけるリスクマネジメント

## 器材管理（感染管理）

**スタンダードプリコーションに準ずること**

フットケア器材は**セミクリティカル器具**として取り扱う

※爪にも菌が潜んでいる可能性が高いため

※セミクリティカル（中水準消毒適応）

創傷のある皮膚・粘膜に接触する器材

※ノンクリティカル（低水準消毒適応）

粘膜に接触しない、創傷のない無傷の皮膚と接触、  
あるいは皮膚との接触はない

**血液・体液に触れた場合はすべて滅菌**

### ※白癬菌に有効な消毒法※

※熱水による消毒：70～80℃ 10分間

※消毒液による消毒：①0.1%～0.05%次亜塩素酸ナトリウム液 30分浸漬消毒

②消毒用エタノールによる清拭消毒または10分浸漬消毒

※金属性の物は錆に注意。錆が器材に残ると腐食部分に微生物が入り混み感染のリスクになる得るため注意

# セミクリティカル（中水準消毒）管理方法

## ①一次洗浄（使用器材を洗う）

- ◆ 家庭用洗剤は油汚れ除去を目的としたものなので推奨されない。たんぱく質分解酵素洗剤を選択する
- ◆ 用手洗浄（人による洗浄）細かい部位の洗浄は困難であり不確実。また作業者の感染曝露のリスクや鋭利な器材による切創が起こる危険性がある 医療機関では廃止しているところが多い
- ◆ 浸漬洗浄（洗浄液につける）濃度・温度・時間の管理が必要で器材がしっかり漬かっていることが条件である 医療機関では一次洗浄前処理として採用している施設がおおい
- ◆ 超音波洗浄：目に見えない器材の細部まで短時間で洗浄することができる。主なフットケア器材（ステンレスなどの金属製品）は20KHZの周波数で可

## ②消毒（薬液による消毒）

- 消毒薬の微生物に対する消毒効果は濃度、温度により変わるため、管理が必要
- 消毒薬は生体に対して毒性を持つ化学的物質なので、残留物質による副作用や業務上の曝露に注意し、できる限りの防護を行うことが推奨される
- 薬液に器材を浸漬する際は必ず蓋をし、しっかり漬かっていることが条件である。また消毒後は薬液が器材に残留しないよう、すすぎをしっかりと行う

①②の手間を一気に解消し、確実に中水準消毒が行える方法  
ウオッシャーディスインフェクター

# ウォッシャーディスインフェクターによる熱水消毒

- ウォッシャーディスインフェクターによる熱水を用いた消毒法は効果的かつ経済的で、消毒薬のような残留毒性がない安全な方法である。

(World Forum for Hospital Sterile Service(WFHSS)は、細菌や熱に弱いウイルスにはAo値600を、B型肝炎ウイルスなどの耐熱性病原体にはAo値3000を推奨しているため、90~93℃、5~10分(Ao値3000~12000)が医療で使用されるものとしては推奨されている)

※Ao値(Aノート値)とは? 対数的死滅則を80℃の熱水消毒に換算した時の等価消毒時間を秒で表示したもの

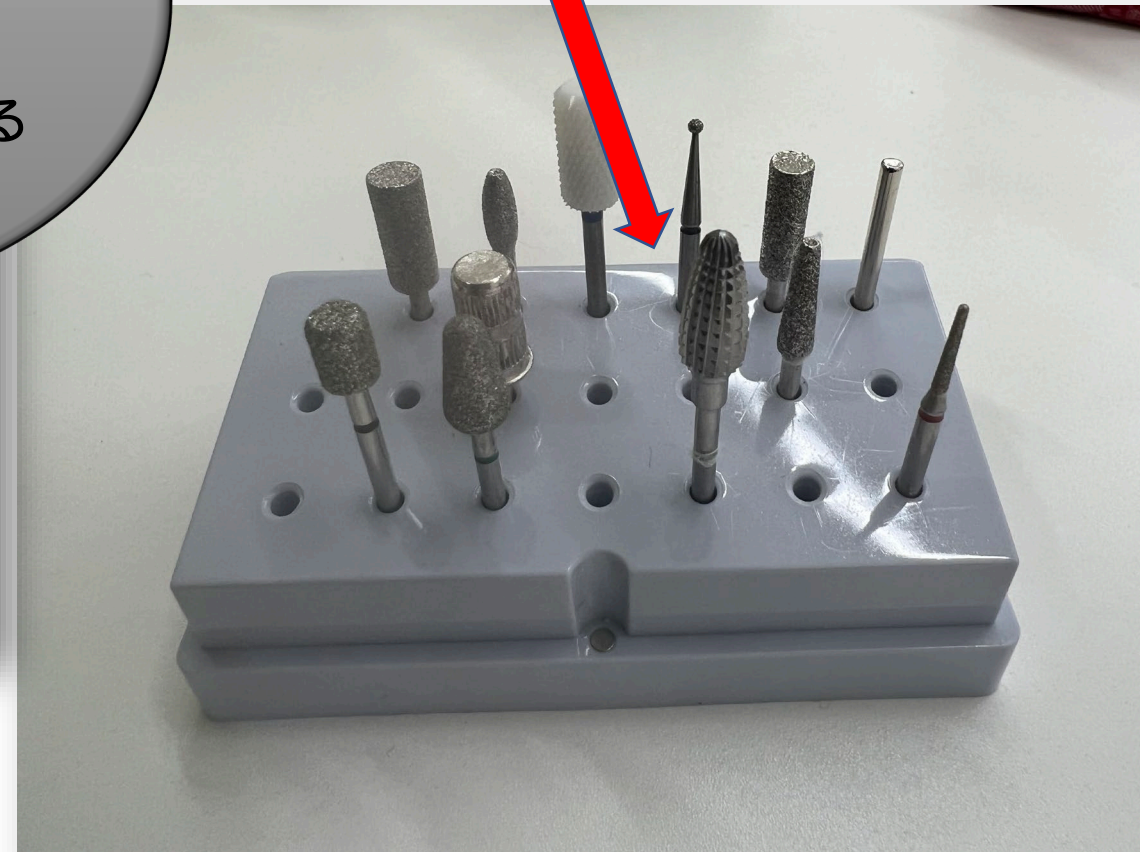
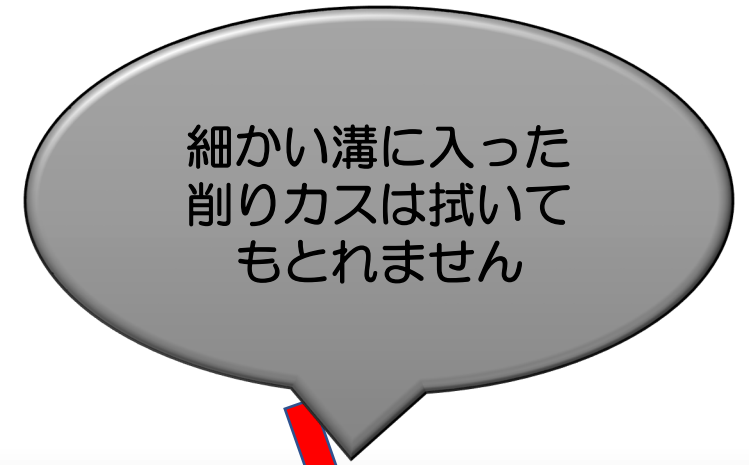
熱水80℃10分間の処理により、芽胞を除くほとんどの栄養型細菌、結核菌、真菌、ウイルスを感染可能な水準以下に死滅または不活性化することができる。

- 一般的に市販されている家庭用食器洗浄機 60~80℃ 乾燥温度は90℃に達するのことが多い。セミクリティカル(中水準消毒)が適応されるフットケアの現場では家庭用食洗器で対応可能である場合が多い機器によっては温度管理が不十分なものがあるため、その点、注意は必要である

中水準消毒を行った後の器材管理: ジップロックなどの袋に入れ、埃などがかからないよう管理を行う

**洗えないものは基本ティスポーザフルと考える  
鍋でぐらぐらと煮沸する方法は確実である(15分)**

# アルコール綿で拭き上げる：感染管理的にはNG



# 面倒くさいけど、スタンダードプリコーションは必要です

**手袋・マスク・ゴーグル・エプロン  
1処置1手洗いは必須**

フットケアで対象となる微生物  
表皮ブドウ球菌  
真菌  
緑膿菌など  
創傷を有するフットケアの場合はこれに限らない

高齢者の白癬菌保有率は約50%と言われている。  
グラインダーを使用した白癬の肥厚爪ケアを行う場合  
**細かい粉塵が舞うため、施術者自身の感染防止は重要である**  
**グラインダーは吸引型orミスト型が望ましい**

フットケアで懸念されるものは～白癬菌（細菌）サージカルマスクで吸引は防御可能  
グラインダーによる粉塵によって環境汚染あり 施術者はPPEで防御可能だが、患者は？  
透析室内でのグラインダー使用であれば、他患者への暴露は否定できない。  
コストに変えられない、健康被害が起こることはゼロではない



# フットケア実技における感染管理

- 👣 器材管理はSpaulding分類を基準に管理すること
- 👣 スタンドアードプリコーションを守ること

**患者を感染経路から守る感染管理**  
**施術者を感染暴露から守る感染管理**

**フットケア実技をするのであればとても大事**

